

グローバル人材の多様化

—日本で勤務する LGBT 駐在員の調査を中心に—

桜美林大学大学院国際学研究科博士後期課程

アンダーソン・ジョエル・ダニエル

<要旨>

グローバル人材のプールはますます多様化している。この研究の目的としては、性的指向および性自認 (SOGI) が多様な海外駐在員が日本で働いている間にどのように複数のアイデンティティを維持し、またどのようにそれらを表現するのかを考察することである。本稿では、グラウンデッド・セオリー・アプローチ (Charmaz, 2006) を使用し、東京で働いている 10 人のレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー (LGBT) 海外駐在員のインタビュー調査を分析した結果を明らかにする。出現したテーマに基づいて、LGBT 駐在員の日本での開示決定において「外国人」アイデンティティの調整変数を考慮する概念フレームワークが形成された。調査結果として、LGBT 駐在員が SOGI の多様性を開示する際に非常に注意深くなるが、個を取り巻く環境の安全性の認識レベルによって SOGI 開示の際に影響があることを示唆している。強いて言うのであれば、LGBT としてのアイデンティティよりも自身が外国人であるというアイデンティティが自己概念の中心にあるようだ。グローバル人材管理に関してのインプリケーションが概説されている。日本での LGBT 海外駐在員を主な対象とした先行研究は未だ無い為、この研究は非常に先進的であると考えられる。

<キーワード>

グローバル人材管理、LGBT、駐在員、ダイバーシティ